

◆ 平成 27 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：かわごえ里山イニシチブ

代表者：代表理事 増田純一

URL : <https://www.facebook.com/kawagoesatoyama>

1. 活動が必要とされた状況

ネオニコチノイド系農薬の出荷量と共に自閉症や発達障害が急増しています。その原因が科学的に明らかになっているにもかかわらず、日本では農薬の使用基準は緩和され、生きものが棲めない田んぼに変わりつつあります。さらには、経済的に成り立たないため稲作農家は年々減少し、日本の原風景である田んぼが少なくなっています。このような田んぼを、少しでも減らそうとかわごえ里山イニシアチブは活動を続けています。田んぼが日本を救う！子供たちを救う！そんな思いで活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 27 年 3 月 14 日の「2015 田んぼフォーラム」の講演会に引き続き、田植後、草取りに入らず、コナギもヒエも発生しない田んぼづくりの「有機稲作ポイント研修」を、福田地区の田んぼをモデルにして 3 回にわたり行いました。第 1 回（4/18:25 名）は「種まきから育苗管理」、第 2 回（5/28:30 名）は「抑草・収穫までの管理」、第 3 回（7/10:30 名）は「稲の「生育診断、追肥の考え方、追肥の実際」と稲の生育に合わせて研修を行いました。吉田地区では、田んぼをシェアして無農薬のお米を自給する「かわわ（川越の輪）シェア田んぼ」（6/7 田植え、9/27 稲刈:延 100 名）の試みを始めました。生きもの調査（5/17,7/4,5:延 100 名）では、動物編と野草を食べる生きもの調査として植物編を行いました。また、福田地区では、環境保全型による『マコモ』栽培の支援も始まりました。



有機稲作ポイント研修



かわわシェア田んぼの田植



マコモの栽培

3. 活動の成果

平成 27 年の試みを総括すれば、農家や非農家の人達が集まり全般的に大きな成果をあげることが出来ました。モデル田んぼでは無農薬による抑草が成功し、研修生の田んぼでもこの農法を拡散することが出来ました。生きもの調査を通じて大勢の子供達に生きものによる環境の大切さを教育することができました。このように、人と自然、人と人との交流や環境教育、生物多様性で環境豊かな田んぼの理解促進を行うことが出来ました。

4. 今後に残された課題

これまでの経験を生かして平成 28 年度は、福田の田んぼで「生きものを育む田んぼプロジェクト」をスタートさせます。このプロジェクトの目的は、生物多様性を活かした米作りで、農家・非農家が協力して安心安全な米作りを行うというものです。このプロジェクトの成功の可否が、生きものを育む田んぼの理解を深め、普及・発展させるための鍵となります。